

## 4-2 重点産業利用課題

### 1. はじめに

2007年1月26日に領域指定型の重点研究課題の1つとして承認された重点産業利用課題は2007年4月1日から2008年度末までの期限であったが、2008年10月2日に重点産業利用領域の有効期間が2011年度末まで延長されて2011B期で終了した。本施策では、「新規利用者」、「新領域」、「産業基盤共通」と「先端技術開発」の4つに大別して課題募集を実施している。現行の2回/年という課題募集では利用サイクルが長いため、産業界のニーズに合わないとの産業界からの要望に応えることを目的として、2007B期から、産業利用Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3本のチームラインでは、各期A期、B期の課題募集を2回（年4回の課題募集）に分けて実施している。また、1年間にわたり計画的に複数回の実験を行う1年課題の制度を導入した。（ただし、2011年は最終年度であるため、2011B期は1年課題の募集は行わなかった。）なお、重点産業利用課題においては、通常の利用報告書（2011A期のみ）に加えて利用期終了日より60日以内に重点産業利用課題報告書の提出を求めている。一方、先の先端大型研究施設（戦略活用プログラム）で実施された特許取得や製品化などの理由で最大2年間の報告書公開延期が認められる制度を、重点産業利用課題においても継承・実施した。

### 2. 応募・採択状況

#### 2-1 2011A利用期

2011A期の公募結果を表1に示す。2011A期の合計では、138課題の応募（一般課題として採択されたものを含み、12条一般課題を除く。）のうち77課題（12条一般課題を除く）が採択された。応募数は2010A期と同程度であるが、

表1 2011A期 研究機関別応募・採択結果

募集時期	機関分類	応募数*	採択数**
第1回募集	学官	36	29
	産業界	60	37
	合計	96	66
第2回募集	学官	21	6
	産業界	21	5
	合計	42	11
総計		138	77

\*応募数は重点産業利用課題と同時に審査される12条一般課題を含まず、重点産業利用課題で不採択となり一般課題で再審査された課題を含む。

\*\*採択数は重点産業利用課題と同時に審査されて採択となった12条一般課題、一般課題として再審査され採択となった課題を含まない。

採択数が約20%減少して平均採択率は55.8%と、競争が一層激しくなった。特に第2回募集では平均採択率が26.2%とこれまでの最低となった。これは、3本の産業利用チームラインでの長期利用課題、及び成果専有課題、成果公開優先利用課題の増加により、重点産業利用課題に供するチームタイムの割合が減少したことが原因と考えられる。

#### 2-2 2011B利用期

2011B期の公募結果を表2に示す。2011B期は2010B期より18課題多い合計163課題の応募があった。（一般課題として採択されたものを含み、12条一般課題を除く。）このうち84課題（12条一般課題を除く）が採択され、2011B期を通じた平均採択率は51.5%とA期とほぼ同じであった。なお、例年採択率は、産業利用Ⅰ、Ⅱ、Ⅲチームラインのみが募集対象になるB期第2回募集が最低となっていたが、今回は第2回募集の採択率が76.1%と第1回募集の採択率41.9%を上回った。これは第2回募集の応募締め切り日が例年より1ヶ月早く応募が減少した上に配分可能シフト数が例年よりも多かったことが原因と考えている。

表2 2011B期 研究機関別応募・採択結果

募集時期	機関分類	応募数*	採択数**
第1回募集	学官	55	19
	産業界	62	30
	合計	117	49
第2回募集	学官	31	23
	産業界	15	12
	合計	46	35
総計		163	84

\*応募数は重点産業利用課題と同時に審査される12条一般課題を含まず、重点産業利用課題で不採択となり一般課題で再審査された課題を含む。

\*\*採択数は重点産業利用課題と同時に審査されて採択となった12条一般課題、一般課題として再審査され採択となった課題を含まない。

### 3. 産学官の動向

大学等の研究機関が中心となって新しい分野での産業利用の促進を図ることを目的として重点産業利用課題において導入した「産業基盤共通」の課題は、2011A期では5課題が採択、2011B期では1課題が採択された。A、B期とも採択課題の申請代表者はすべて学官に所属し、導入当初の目的どおりに活用されていることを示している。なお、東日本大震災の影響を受けて2011B期の産業界からの応募数は2010B期より8%程度減少する一方、学官からの応募

が約1.5倍に増加したことにより、2011B期の採択数は学官課題が産業界課題を上回った。これは大学等の研究機関が産業に関連する応用研究にも力を入れ始めたことの現れと理解している。

#### 4. 報告書公開延期制度の利用

重点産業利用課題で実施した課題のうち、28課題(2011A期：13課題、2011B期：15課題)で報告書公開延期申請が提出された。いずれの課題も知的所有権取得や製品化など事業展開を申請理由としていたため、報告書公開延期を認められた(表3、表4)。なお、2011B期より成果を専有しない課題の成果報告の扱いが変更になったことに対応して利用報告書が廃止となったため、2011B期は重点産業利用課題の報告書のみを公開延期対象とした。

表3 2011A期 分野別公開日延期許可課題  
(公開日延期不許可なし)

分 野	課題件数
エレクトロニクス	5
環境・エネルギー	4
素材(金属・高分子等)	2
製薬・生活用品	2
その他	0
合 計	13

表4 2011B期 分野別公開日延期許可課題  
(公開日延期不許可なし)

分 野	課題件数
エレクトロニクス	4
環境・エネルギー	5
素材(金属・高分子等)	5
製薬・生活用品	1
その他	0
合 計	15

#### 5. 重点産業利用課題成果報告会の開催

2010A期、2010B期に行った重点産業利用課題を主な対象とし、臨床研究情報センター(神戸市)で平成23年9月8日～9日に開催された第8回産業利用報告会において、6件の口頭発表と22件のポスター発表による成果報告を行った。

産業利用推進室  
廣沢 一郎